



# 信太の森ニュース

No. 19

2015年1月3日



## 謹賀新年

2015年1月3日：大野池

昨年は、前号でも紹介しましたが、観察会への参加者が増えたり、大阪みどりのトラスト協会とも惣ヶ池湿地の共同管理や合同観察会を開催することで会の活動にも弾みがついた年になりました。

信太山丘陵市有地の保全・活用ワークショップについては、年末の最終検討会を終えて「基本構想」が纏められたばかりです。

2015年、信太山丘陵は、生物多様な里山「自然公園」づくりを目指して、本格的な第一歩を踏み出そうとしています。

観察会、保全作業、関係イベントへの参加など昨年にも増した取組みが必要になるかと思わ

れます。みなさんと共にすすめてまいりたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

### 第8回「信太山丘陵市有地保全・活用ワークショップ」

昨年の暮れ（12月25日）に開催された第8回「和泉市信太山丘陵市有地保全・活用ワークショップ」検討会議は、10月27日からのパブリック・コメントを受けて「和泉市信太山丘陵市有地保全・活用基本構想」が纏められました。

その内容は、これまでと殆ど変わるころはあ

NPO法人 信太の森FANクラブ  
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202  
電話 0725-45-7357  
E-mail [tamahati@amber.plala.or.jp](mailto:tamahati@amber.plala.or.jp)

りませんが、検討会議の中で、今後の公園づくりの運営母体となる「公園協議会」の構成について、試行期（平成27年～計画期の半ば）の構成メンバーに入っている「既存の保全団体（当FANクラブなど）」が、展開期（計画期の後半）では構成メンバーから外れていることについて、「信太山丘陵の生態系を知りつくしているのは「既存の保全団体」であり、単に保全の経験のある者だけで構成されるとすれば、生態系保全に問題があり、構成メンバーとしていれる」べく指摘した結果、展開期においても構成メンバーに入れることになりました。

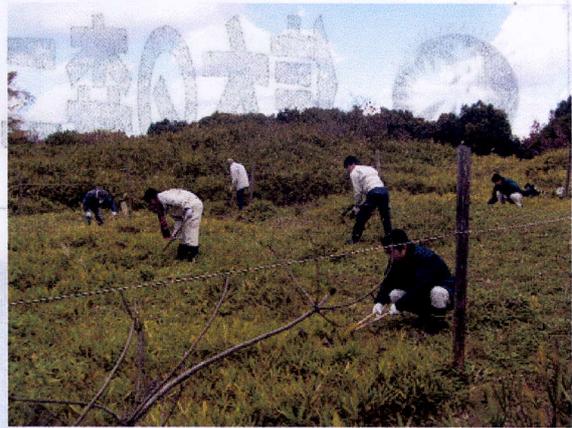
ここで決まった「基本構想」には、前号で触れた管理棟の位置の問題、道路の問題など幾つかの問題を含んでいますが、これらの問題は今後「公園協議会」の「運営会議」の中で議論していく必要があります。

ワークショップ検討会議は、本来この会議で終了するところでしたが、会議冒頭に大阪府大教授増田委員長から「今回の会議が『基本構想』を纏める最後の会議になります。27年度当初から『公園協議会』の運営がスムーズにスタートできるように、今年度中にもう一回会議を持ちたい」との提案がありました。来年度からの「公園協議会」のスタートを市に任せては、いつから開始されるかわからないといった不安があったからではないかと思われます。遅くとも2月中には最後のワークショップ検討会議が開催されることになりました。

## ワークショップ作業部会

ワークショップ作業部会は、12月5日に公民協働による草地の草刈りを行いました。

実施した場所は、一年前に笹刈りを行った3か所で、市役所職員、大学研究生を含め総勢21名が参加しました。FANクラブからは7名と呼びかけた一般市民2名が参加しました。



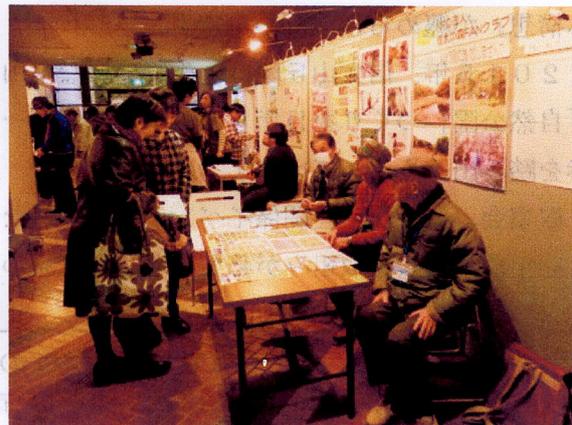
ワークショップ作業部会の保全作業

## 大阪自然史フェスティバル2014に参加しました。

毎年11月に長居公園の大阪市自然史博物館で開催されている大阪自然史フェスティバルにFANクラブは今回も参加してブースを出し、当クラブのピーアールに努めました。

今回は11月15日、16日の開催で、出展テーマを「信太山丘陵の湿地・里山保全活動」として展示して、観察会や保全活動への参加をピーアールするほか、二日目には子どもたち相手に、島崎さんが準備してくれたドングリとアベマキの殻斗で作る「イガグリ坊」のクラフト作りをして貰いました。

今回は参加団体が多かったのか、展示ブースが狭い中で、二日間合計8名の会員の方が展示ブースでの来場者応対に当たっていただきました。お疲れ様。ありがとうございました。



大阪自然史フェスティバル：ブース風景

1月11日(日) 定例室内例会  
信太の森ふるさと館 午前10時～

1月14日(水) 惣ヶ池湿地保全作業日です  
集合場所：鶴山台4丁目バス停付近：9時～

## JA葛の葉支店でFANクラブ写真展

12月1日～12日の約2週間、府道30号線沿いにあるJAいずみの“くずのは支店”でFANクラブ会員による写真展「信太の森自然展」を開催しました。

2年に一度開催しているFANクラブ会員による“信太の森写真展”を1月か3月に開催しようと考えていた矢先に、山千代氏からJA“くずのは支店”でやらないかとの話があり、JAでの開催が実現したものです。

来店者の多くの方が写真に見入っていたと、信太山丘陵の自然の素晴らしさを伝えることができたのではないかと思います。



JAくずのは支店で開催した写真展

## FANクラブ信太の森写真展

JAでの写真展に続き、信太の森ふるさと館で1月6日～1月28日まで「FANクラブ信太の森写真展」を開催します。JAで展示した写真の一部を入替えて展示します。ご覧ください。

## 信太山丘陵・山の谷の話(2-続き)

自衛隊演習場内の耕作地が裁判による和解で返還することになったところまでが前号でした。

わたしら子どもの時に畑の手伝いをしたという経験が随分あります。いろんな野菜を作って

いて、特に大根なんか沢山作って12月に大根を引き稲のはざがけのようにして干して市場に出荷するという、実に見事な光景でした。同じように晒し業者が信太山で晒しを干すという光景が雪化粧のようで子どもの頃の状況でした。

先祖の関係で深かったのが蔭涼寺との関係です。お寺は沢山の山を持っていて、農地改革によって随分召し上げられたようです。

山の谷は門前百姓といわれるようにお寺と住民はお寺と小作という関係で続いてきたと言われています。寺の境内にある集落と言った方がいい。住民の集会も子どもが遊ぶ場所もお寺という関係でやってきました。

今の住職の先代までは世襲制でなく、曹洞宗・禅宗の本山、永平寺から送られてきており、何人もの修行僧がいました。私の父親も修行僧として愛知県から蔭涼寺に来たという経過があり、坊さんをやめて山の谷出身の母親と結婚して住みついたということです。

山の谷の産業は百姓で、殆どが蔭涼寺の小作人としてその収益で生活をしていました。そういうものを見ていて、非常にきつい仕事をしていたと思う。朝の早くから農作業に出て家に入れば内職をしているという状況でした。内職の模造真珠のガラス玉を撒く下準備など子どもたちもやっていました。こんな仕事は嫌だと殆どの子が思っていたようです。子ども心に農家の仕事は大変だと思っていて、別の職業に就きたいと思っていました。

そのうち進学する者も増え、現在では山の谷の人口140人位(選挙権108人)の人数の中でいろんな人がいます。信州大、一橋大の教授が2人、看護師、学校の教員、私も教師をしていました。信太釜とって立派な陶芸家もいます。サラリーマンに方向転換していきました。

今の農業は年寄りが片手間にやっていて、1軒だけ水耕栽培で他人を雇ってやっています。現在は、子どもの数も減っている状況です。

—おわり—